

「拓魂不滅」

山形県金山町開拓

山形県には、45（昭和 20）～47 年だけでも引揚者、戦災者ら約 3 3 0 0 戸が入植した。北東部の最上郡金山町（かねやままち）長野開拓地には、47 年に満州開拓団の引揚者 22 戸が入植し、再び開拓に打ち込んだ。

標高 1 5 0 ㍎の丘陵地で、強酸性土壌だった。根雪期間が長い地区でもあった。入植者は当初、仮施設で共同生活を営み、開墾を始めた。豆類、バレイショ、ソバなどの栽培に取り組んだ。

やがて開墾が進み、住宅も建ち、53 年にはようやく電気が導入された。しかし、53～55 年、3 年連続で冷害などの自然災害に襲われ、大打撃を受けた。それでも開拓者は希望を失わず、営農を定着させた。

現在、営農を行っているのは 11 戸となったが、畑作や葉タバコ栽培などで、農産物を安定的に生産している。

77（昭和 52）年、町内四つの開拓組合（計 41 戸）の開拓記念碑が建立された。碑銘は「拓魂不滅」で、困難を乗り越えた開拓の歴史のシンボルとなっている。裏には、まず「金山町開拓事業完了記念」とあり、歴代組合長と入植者の氏名が刻まれている。

山形県は、長野県に次ぐ満州移民送出県だった。金山町には、戦時中、16～19 歳の青少年を開拓民として送り出す「満蒙開拓青少年義勇軍」の訓練農場があった。その跡地に、教室・寄宿舎として使われた「日輪舎」が現存している。

円形で屋根は円錐形の独特な木造建物。2 階建てで大きく、最大 80 人収容できた。現在は、イベント会場や体験農場の場となっている。

長野地区記念碑

- ①位 置 最上郡金山町朴山（38° 53'01.1"N 140° 17'18.8"E）
- ②設置者 金山町農業協同組合
- ③設置日 昭和 53 年 5 月
- ④碑文表 拓魂不滅 山形県議会議員 岸田一郎
- ⑤碑文裏 金山町開拓事業完了記念 歴代組合長、入植者氏名
- ⑥当該地区の沿革等（金山町広報紙 584 号 2011 年 8 月より抜粋引用）

昭和二十二年に満州開拓団からの引揚者で、西村山郡出身者を始めとする方々が入植し、この地を開拓した。

当初は、入植者全員が「食・住」を共にし、仮屋の建設に始まり、昭和二十八年にようやく農地の整備が一段落したが、当時三年続いた冷害と干害により大凶作に見舞われ、住民を苦しめた。

また、酸性度が強い地質のため、堆肥などの投入により土壌改良を余儀なくされたが、努力の結果、葉タバコ栽培や養蚕に取り組み、安定した農業経営の出来る耕地を作ることが出来た。

そして、昭和四十四年に開田事業により、稲作を中心とした農

業経営に移り変わった。入植時、二十二世帯だった戸数も六十年を経て、現在は、十一世帯となった。

